

徳島県総合計画審議会未来創造部会 会議録

I 日時 平成22年9月22日(水) 15:30~17:30

II 会場 県庁10階 大会議室

III 出席者

【委員】11名中 11名出席

近藤光男委員(部会長), 近藤明子委員, 林志歩委員, 原田幸委員,
山上敦子委員, 小部博正委員, 津川なち子委員, 服部和彦委員, 浜口伸一委員,
浜口智子委員, 藤崎耕治委員

【県】企画総務部長, 各部局副部長, 政策企画総局長 ほか

IV 会議次第

1 開会

2 議題

(1) 県民からの意見聴取の結果(前回開催以降)について

(2) 中期プランの構成について

(3) その他

《配付資料》

資料1 県民からの意見聴取の結果

資料2 総合計画審議会部会及び未来創造部会からのご意見・ご提言

資料3 中期プラン編構成案

V 議事録

1 開会

2 議題

(1) 県民からの意見聴取の結果(前回開催以降)について

(2) 中期プランの構成について

(3) その他

3 意見交換

(委員)

資料1・2の中には、芸術・文化面の話題が少ないという印象がある。

芸術・文化は、地域の特徴を醸成するものであり、特徴ある地域づくりには欠かせない

ものである。また、それを大事にし、学ぶことによって、地域に対する誇りを築いていけるものと感じている。地域の芸術や伝統文化に触れることができる様々な取組や機会を作ることで、その地域の特徴を活かした地域づくりができるのではないかと。

(部会長)

その辺りは、議題2で話をしたいと思うので、よろしくお願いします。

(委員)

私は1回目の会議を欠席したため、少し重複するかもしれないが、前回と今回の資料を見て、政治システム的なことについて、触れられていないと感じた。

今後、さらに情報化も進み、政治の形態も変わってくると思う。例えば、現在の市議会や町村議会というものは、あまり意味を成していないと思う。

一部の議員による議論の場ではなく、広くNPOやボランティアの人が中心となる政治に変換していくべきではないかと感じている。

その先駆けとして、一部ニュージーランドなどでボランティアが参加していると思うが、徳島においても進めていければ良いのではないかと。

また、企業を営んでいる立場として、2点触れたいが、1点目は、いかに徳島の経済を活性化させていくかであり、徳島が元気になるためには、働く場所、仕事が増えて、税収も増えていかなければならない。

徳島は日本で社長の比率が山形、香川に次いで3番目に多いと聞くが、徳島は、明るくて勤勉な県民性が昔から脈々と受け継がれているところもあり、起業家の意識が高いのではないかと。

これを発展させるような施策は、現在も「LEDファンド」などがあるが、それをさらに進めて、例えば、シリコンバレーで言う「エンジェル（個人投資家）」のようなものが、出てくる素地を作っていくことも考えられる。

また、こどもの時から起業することの意義を教える必要がある。起業することによって、世の中のためになるとか、社会貢献できるという意義を教える教育を進めていくことも、重要ではないかと思う。

まだまだ徳島の大部分の企業は、視野が国内に留まりがちである。今はインターネットの時代で、どこでもアクセスでき、グローバルな視野で自由に商売ができる。我々も小さな会社だが、輸出や国外企業と提携して事業を進めようとしている。そうした可能性はこの企業でもあり、それをサポートする仕組みを考えていかなければならないと思う。

もう1点、我々の会社は最近、太陽光発電に力を入れており、企業としても「人と地球に優しい技術で社会に貢献する」ということをコンセプトにしている。私自身も地球温暖化に非常に危機感を覚えているが、「環境首都とくしま」を標榜するからには、もっと積極的に新エネルギーに取り組んでいかなければならない。

環境資源も1つの大きな財産となる。CO2を吸収する財産でもあり、将来的にはそういうものが取り引きされるような形になると思われる。徳島であれば、エネルギーの自給自足ができるのではないかと。そうしたことも、視野に置いたビジョンに持っていければ良いと思う。

(部会長)

〇〇委員からは大きく2つの意見をいただいた。大事な点だと思う。次の議題でも関連してくると思うので、よろしく願います。

(委員)

現在、商店街青年部ではツイッターを使った情報発信を行っており、阿波踊りの時にも情報配信を行った。これまで、おもてなしをしたり、情報発信をするツールがなかったが、それが強化でき、現在、ツイッターの中でフォロワー数が増えている。

これを今後、各店や団体など、情報発信をしたいところに活用してもらおうツールにしようと考えており、今日は、そのメンバーも一緒に傍聴している。

前日も申し上げたが、今、NPOや地域の色々な団体が、非常に良い形で地域の活性化のために活動しており、そろそろ、連絡会議のようなものを作り、一緒にアイデアを出し合っていけば良いのではないかと考えている。なぜなら、私たちの団体でも、メンバーを見ると、一度東京や大阪に出たり、東京から1ターンで来ているメンバーがほとんどで、徳島ですっと育ってきた人は少ない。

今回の資料1で、例えば教育ならば、徳島だけで色々なアイデアを出し合って、活動していくことも大切だが、県外の人や色々な経験をした人との交流やインターンシップなどを制度化して、一緒に行動できるようになれば良いのではないかと考えている。

何か1つの事業を通して、県外の人と交流しながら、徳島に合ったものを作っていくような制度があれば非常に良いと思う。

また、今日、大学を卒業して東京に出た人と話をしたが、徳島を出た理由は、自分のしたい仕事が徳島にはなかったと言うことであった。SEになりたくて、東京へ出て仕事をしているとのことであったが、先ほどの〇〇委員の発言のようにITなどが発達している今、IT関連などは、やり方によっては、徳島でやろうと思えば、十分にやっていくことができる。

そこで交流もでき、色々な形で東京や大阪の先進的な意見が、徳島に入ってきて、そこで人が育っていくものができるのではないかと考えている。私自身も、東京にいたが、今でもよく東京に情報収集に行く。先日も「六本木マルシェ」に行った。徳島も「わくわく日曜市」をやっているが、都会のそうしたところに行くとは非常に雰囲気が良い。そうしたところをどんどん吸収して、徳島の中で徳島に合ったものを作っていくことができれば良いと思う。

(委員)

私もNPOや色々な団体での取組を連携させるための「連絡会」が、このプランを立てる時ではなく、実行していく時に必要なのではないかと考えている。

今、この中で出てきた意見や私の提案の中にも、実は後から気が付くと、既に行われているものがある。地域の中ではもう既に色々な小さな取組みが、あちこちでなされているのが実際だと思う。地産地消の給食にしても、新聞によると鳴門市では月1回行われている。それを上手く結びつけられないところに問題があるのではないかと考えている。

糖尿病に対する取組についても、医師会も一生懸命やっているが、他にも色々なところ

で取り組んでいる。私は最近学校医もはじめたが、小学校に行くところもが万歩計をつけていた。どうしてか問うと、徳島の子どもたちは少し体力が足りないので、運動するために付けているとのことであった。この件について医師会は知らなかったが、そうしたことを一緒にやれば、もっと効率的になるのではないか。連絡会という視点は良いと思う。本当に皆さん色々やっていて、素晴らしいと思う。

(委員)

10年後の徳島ということだが、実は県の中でもそれぞれ関連の部署で論議をされていると思う。例えば、環境部門であれば環境審議会があり、そこでは、今後2025年にCO2の削減を90年比25%削減を目指して、そのための政策について細かいところまで論議が始まろうとしている。

そうした県の様々な分野での政策を、どのように反映していくのか、整合性を持たせていくのかということが必要になる。例えば、環境や福祉の分野でどういう論議がなされているのかが、ここには反映できていない。そのあたりが難しいと思う。

もう1つは、皆さんの意見を見た時に、1つのことを解決すると色々なことが解決できることがあると思う。例えば、自転車道の整備をすることで、環境にも配慮でき、なおかつ糖尿病対策、福祉面、健康といったところにも繋がる。

また、「地産地消」を進めていくために、「生産」「販売」「消費」をトータルで考えていくことで、「食の安心・安全」や「農業政策」あるいは「食育」といったことがトータルで見えてくることを感じた。

1つ1つを細かく項目ごとに見るのではなく、その項目に対してトータルでどういうことが見えてくるかという視点の大切さに気づいた。

(委員)

私は林業、木材関係に従事しているが、この林業や木材は政府の新成長戦略の目玉事業となりつつあるが、木材住宅着工戸数の伸び悩み、消費の低迷から、山の整備は進んでいるが、投資効果が生まれにくい環境が続いていると思う。

徳島県は林産県であることから、中国市場を視野に入れて、木材を輸出商品として開発していくべきではないかと思う。ご承知のとおり、中国では非常に木材が不足しており、元(げん)の価値の問題もあるが、将来的には、原木の丸太なども、価値が出て輸出商品になる可能性もあるかもしれない。

また、内装材や銘木、家具、建具といった二次製品、付加価値商品は、一部の企業で輸出しているところもあるが、官民協力のもと、輸出商品として、さらに研究開発投資をしてもらいたい。

私も銘木という床の間の材料を扱っているが、海外、特にアジアの中でジャパニーズ・デザインというのを広く宣伝広告していけば、徳島杉のブランドと相まって、中国などで受けるのではないかと感じる。木材業界の1つの活路として、木材を輸出商品として見つめ直してもらいたい。

また、地震対策については、南海沖地震の対策で耐震診断は進んでいるが、耐震化工事が進んでいないのが現状かと思う。最近になり、公共の建物で随分この耐震化工事が行わ

れているが、一般の住宅の場合は、悪いと知っていても直さない。

おそらく今徳島に地震がくれば、家の中で亡くなる方がかなりいるだろうと思う。こういうことは、たぶん行政にもデータとして入っていると思うが、それが分かっているながら手を打たないのは、おかしい。我々は建築家でもあるが、この状況では何か手を打つべきだと思う。短期的に劇的に、耐震化ができる工法や制度を、もう一度、中・長期的に作っていかねばならないのではないか。

次に、治安の良さも観光という観点からすれば、売りになるものだと思う。対中国で観光や経済交流を行う上で、日本の安全は魅力で、長期滞在をしても非常にトラブル等は少ないだろうと思われる。

そうした環境、いわゆる安全・安心な街の魅力を更に磨き上げていけば良いと思う。ゼロミッションを各ジャンルで行って、交通事故、盗難、その他色々な犯罪、そうしたものについて、目標を設けながら磨きをかけ、「ここに行ったら財布を落としても帰ってくる」といったイメージづくりを行っていけば良いと思う。

最後に、趣味の話だが、私はゴルフが好きで、小さい頃からゴルフをやっているが、環境の良い徳島のゴルフ場をもっと活用できないかと思う。

ゴルフと言うと今は石川遼くんが話題で、大きな経済効果と話題性がある。徳島のゴルフについては、どうかと言うと、かつてはジャンボ尾崎や有名なプロも輩出しており、素地はある。しかし、現状でゴルフ業界を見ると、教育する人材がいない。あるいは、ジュニアを育てる土壌がないといった問題がある。石川遼くんは5歳ぐらいからやって、10年ぐらいでものになったことから、今から磨きをかければ、ひょっとすると10年後、凄い人材が何人か出て、一気に徳島出身のゴルファーとして名を馳せるようなこともあるのではないかと思う。

ゴルフ場は私の知る限り徳島県に現在14コースぐらいきちんとしたコースがあると思うが、非常に芝づきも良く、中国や韓国の方にも、この徳島の芝は気に入っていただけだと思う。観光資源としても、このゴルフ場をもう一度見直し、上手く活用し、観光に役立てていく。そして中国・韓国の富裕層の方々に来ていただくというようなイメージを巡らしていくのも良いと思う。

(委員)

県民の方の意見の中にも11ページのところに「外国人観光客を呼び込むため、デザイン性のある統一した案内表示が必要」とある。

この点に関して、先日新聞でも「四カ国語表示の案内表記が設置された」という記事を見たが、私自身、仕事柄、ホテルや旅館の方と話す機会があり、パンフレットや案内表記などに関しては、少しずつではあるが整備が進んでいるという話を聞いた。

これからは県が力を入れている医療観光が進むであろうし、また韓国からも教育旅行の子どもが来たことを新聞で見た。こうした外国からの客を継続的に取り込むのであれば、実際に受け答えをするホテル側のスタッフの養成というの、急務になってくる。

先ほどから連携という話も出ているが、1つのホテルで中国語を話せる人を養成しようとする、コストもかかるし、時間もかかり、日常の業務を伴いながらということになると大変かと思う。

既にもう実施しているかもしれないが、県が率先して、簡単な日常会話を取得できる講座を作り、期間集中型で中国語や韓国語だけではなく、語学講習を実施すれば、受け入れ体制の整備が進むのではないかと。

(部会長)

外国人を受け入れる時の基盤的なハードやサービスの向上に対する意見であった。

(委員)

観光とは違うが、今後、人口が減っていく中で、海外の方の受け入れを真剣に考えなければならぬと思う。アメリカなどは受け入れることにより、長期間の成長を遂げてきた。治安問題なども絡んで難しいが、やはり受け入れざるを得ないと思う。

今後、徳島が色々な面でグローバル化しながら活性化していくには、基盤となる人口を減らさず、増やしていく。そして、年齢構成も良くしていくためには、海外の方の受け入れが必要ではないかと思う。

そういう点で、先ほど、語学の問題が出たが、幸いなことに県内には中国・韓国から大勢の留学生の方もいる。留学生の協力も得ていけば、あながちできないことではないと思う。移民の問題というのは積極的に考えるべきではないか。

(部会長)

重い課題に関する意見から明るい話までいただいた。

では、これまで頂いた意見を少し振り返り、その後にもまた意見をいただきたいと思う。

県民の皆さんをはじめ、色々な意見をいただいているが、特に、今日いただいた意見を見てみると、最初に〇〇委員から、芸術や伝統文化に関する意見が少ないという話があったが、この辺は、はなかなか難しいと思う。

前にも言ったが、10年後を見た時に、プランを作る際の考え方として大きく2つある。1つ目は「未来志向型」で、自分たちの幸福感を達成するためにこういうことをしたいという、ある種、夢など明るい話題。2つ目は、現在の課題を解決することにより、良い社会を作っていくという「課題解決型」。先ほどの芸術・文化などは、1つ目になると思う。

そうなれば、これはアイデアが必要であり、おそらく意見が出にくかったのだろうと思う。こうしたことを考えていくのは夢があって面白いと思うので、是非これからも良い話があったら入れていきたいと思うが、実現性から言うと、難しい分野だと思う。

分かりやすいのは、2つ目の方で、現実の問題を見ながら解決方法を考えていくもので、例えば環境問題などが、その代表的なものだと思う。たくさん意見をいただいているので、それも見ながら考えていきたい。

それから、情報技術。ICTの利用ということで、直接的にはそういう表現ではなかったが、例えば〇〇委員の意見でツイッターなどがまさにそうである。10年後の未来を考えているので、10年後を想定して情報技術がどれだけ変わるかというのは、我々の想像を超えていると思うが、その技術は、我々の生活や産業、行政にも入って来るので、そこも考えながらプランを作っていくことが必要かと思う。情報をここまで進展させたいというのは、例えば工学の情報技術開発をしている人の仕事であり、我々の仕事としては、そ

ういうものをいかに利用して社会を良くするべきかということだと思う。

それから、NPOやボランティアに関する意見も多かった。〇〇委員は政治システムという言葉が使われたが、行政も含め、そこに参加してもらうことで、世の中が変わることから、大事な話だと思う。

特に国土形成計画などを見ても、「新たな公」としてきちんと定義しており、まさにこの人たちを指すと思う。こうした人たちと一緒に行政を進めていく。これが審議会や議会にとって代わるかどうかは議論があるところだが、社会にとって非常に大きな力になるのは間違いない。そうした中、横の繋がりが大事である。私は環境県民会議の仕事もしているが、環境の分野でも沢山のNPO団体やボランティアがあり、その横の繋がりがあまりないということで、ボランティア交流会をやっている。環境県民会議が主催で、もう4～5年になる。年1回しかやっていないが、活動している人たちが中心になり、横の繋がりができて非常に良い行事と思う。

こうしたNPOやボランティアは、目的に対して誠実に力強く活動していると思うが、それは社会全体からすると、部分最適であり、それを社会全体の総合的な最適化にするためには、お互いが交流して情報交換し、社会全体でできるだけその力を活かしていく必要がある。10年後ではなく、今まさに必要な話だと思う。

それから、大事な点をいくつか振り返ってみたいと思う。〇〇委員が言われた「各部署でやっていることと中期プランとの整合性の問題」については、ここではなかなか把握が難しいと思うが、行政の方で情報を持っていると思う。

おそらく中期プランが全体のまとめの計画のようなものになるので、例えば環境で10年後の地球温暖化防止のためにCO2をどれぐらい削減するかということ、こちらに反映することになると思う。

それから、これも〇〇委員に言っていたが、私も常々思っているが、1つのことをやるにしても、色々な観点があり、例えば地産地消だと健康にも産業にも関連がある。部署ごとの縦割りの弊害を無くし、一緒に力を合わせて目的を達成するといったことも、計画には書けると思うので、実行に移していくことが大事と思う。

それから観光に関連して、サインやサービスの話があったが、これらは観光の基盤で、必要条件のようなものである。観光客が来るのは、その地域の魅力だとは思いますが、やはり最低限必要なものは整えておかなければならないと思う。講習会も含めて大事なことだと思う。

それから、人口減に対して外国人に移住してもらうというのは、メリット、デメリット、色々問題点もあると思うので、これは議論が必要と思う。やるとなれば、行政がかなり力を入れて推進しなければならないと思う。

これは突き詰めると、人口が減っていくこと自体をどう考えるのか、その辺から話を進めなければならないので、問題とすると結構、根深い問題だが、これから正面から向かわなければならない問題と思われる。

他に、続けて議題1に関し、意見があればお願いしたい。

(委員)

スポーツについてであるが、何か新たに新しいスポーツを作るというのではなく、今あ

る「とくしまマラソン」や「ヴォルティス」を、もっと有効活用できないかと思う。

マラソンに関しても、年1回のイベントとして、また、参加する人だけのものとして捉えるだけではなく、マラソンの文化をどんどん根付かせていく。今、ウォーキングとか、健康のために歩いている方が非常に多いが、年1回のイベントではなくて、もっと気軽に参加できるものを「マラソン」という1つのキーワードの下に行うことによって、糖尿病対策など色々な効果が出てくると思う。

せっかく既存の良いチームや大会があるので、もっとアピールをして、地域に根ざすような形で有効活用すれば、結果として健康面はもちろん、例えば高齢者が参加することによりコミュニティができるなど、複合的に良い方向に行くと思う。

新しいものを作るのは難しいが、今あるものを有効活用して、もっとPRしていくことが重要ではないか。

(部会長)

今やっていることに、付加価値をつけることも充分できると思う。新しいことをクリエイトするのは大きなエネルギーが必要だが、それに比べて、有効活用というのは少しは楽ではないかと思う。

(委員)

今の意見に少し重複するが、私は徳島県に来て13年になるが、来た当初、非常に感じたことの1つが、色々なことに気軽に参加できるということ。

もちろんスポーツもそうで、ゴルフ、テニス、サーフィン、釣り、何でも非常に気軽にできる。コストも非常に安く、環境も整っている。

芸術面でも、私は徳島オペラに1回出たが、自分でやろうと思えば、すぐ参加できる素地が沢山ある。それは都会では考えられない非常に素晴らしいことだと思う。その辺りをもっとアピールし、進めていけば、県民が生き活きと活動できる「まちづくり」ができると思う。

これまでは物質的な満足を求める世の中だったが、それはもうピークを迎えてしまったと思う。今後は精神的な満足度をいかに高めていくかということに尽きる。そういった面で、徳島は非常に高いポテンシャルがあるのではないか。

今、10年後のビジョンを作ろうとしているが、更に先の20年、30年後を見据えて作っていけば、非常に精神的に豊かな生活ができる県・地域になるのではないかと思う。

(部会長)

今の話を聞いて、やはり県民性というものを反映しているように感じた。県民性というのは大事にしたい。

また、先ほど治安の話もあった。日本は相対的に治安が良いが、中でも徳島は治安が良く、過ごしやすい。そうしたことを維持するのも大きな視点の1つだと思う。

会議が始まってから約1時間経ち、皆さんから沢山意見を頂いた。議題2もこの流れで続くので、よろしくお願ひしたい。

今日の会議は5時半頃を終了予定として進めたいと考えている。連絡事項等があるので

意見交換は5時20分頃までと思っている。

それでは、議題2「中期プランの構成について」、事務局から説明を受けた後、また、皆さんから意見をいただきたいと思う。

(事務局)

事務局説明

(部会長)

資料3の「基本戦略」と「重点方針」、これを見て意見をいただきたい。また、内容についても、意見をいただきたい。

(委員)

まず、計画を策定する時には、言葉が非常に大事である。今回、メインに「地域力」という言葉を打ち出されていると思う。

今の計画の「オンリーワン徳島」という言葉は非常によく分かる。今回、何が良いかは思いつかないが、「地域力」を前面に出すような何かアピールする言葉があれば、良いと感じた。

また、メリハリが必要で、色々な意見が出てきた中、「徳島のこの10年はこれをやる」というアドバルーンがあった方が進めやすいのではないかと思う。とにかく「言い続けていけばそうなる」ということは、あると思う。これは話の次元が違うかもしれないが、エコにしても禁煙にしても、10年前はそれほどでもなかったが、今ではもう当たり前になっている。言い続けていくと、みんなその方向に向くのではないかと思うので、やはり言葉というのが大事である。

(部会長)

言葉の大切さ、それからプランにおいて重点的な方針を挙げていく、メリハリをつけるということは、議論すべきことと思う。表現等も見ていただき、意見、アイデア等をいただければありがたい。

(委員)

私は絵描きをやっている。牟岐に「千年サンゴ」があるが、千年サンゴの絵本の絵を描かせてもらった。今、文学書道館で展示されている。

芸術面で意見を言わせてもらおうと、芸術を振興するにあたって、よく展示会など作品展はあるが、本当は現場で絵を描いているところを見せてあげたい。名の通った芸術家を呼んで、作品を創作しているところを見せる。そういう本物をこども達や住民に見せることで、本当の意味での芸術・文化の振興が図られるのではないか。私も少し派遣講師の形で小学校などで経験があるが、やはり実際に描いているところを見せたり、作っているところを見せると、感動が違う。額に入って飾られているものを見せるより、本物の制作過程を見せる方が効果が高く、影響も大きいと思うので、そうした機会を増やしてもらいたい。

(部会長)

今、「芸術」というキーワードが出た。重点方針の中で一番最初に〇〇委員が発言した「芸術・文化」、また、「伝統文化」というのもあるが、現在「文化」というカテゴリーにしているが、「芸術」と「文化」を同じカテゴリーにするのか、あるいは「伝統文化」をどうするのかということもある。これをまとめていくにあたり、事務局に作業をお願いする訳だが、次回、案が出た時に、議論することにしたい。

(委員)

2点あるが、まず1点目は、この部会ではなく、行動計画を策定する時に考えるべきものかもしれないが、数値で計れない定性的なものについて、実際どのように目標達成の度合いを計るべきかについても、議論していくべきなのではないかと感じている。

行動計画であったり、プランというものを評価する時に、数値で計り、「前年度はこうだった。今年はこうです。10年後はこうしましょう。」という風に目標を立て、達成度合いを判断していると思う。

先ほどから話があるように、住んでいる人が「すごく楽しい」「安心して過ごせる」「未来に希望が持てる」「ワクワクしている」といったことは、本当に大事なことであり、それが地域活性化に繋がり、地域の魅力に繋がると思う。しかし、そうしたことを、数値にするのは難しく、そうしたところをどのように計っていくべきかについて、皆さんの意見が伺えたらと思う。

次に2点目だが、先ほど〇〇委員から関連事項とか関連計画というのが多岐に亘っており、関連性を明らかにして方策を考えていくべきであり、また、考えた方策の関連性をどのように表現していくのかという話があった。それと少し関係しているが、今回配布された次期計画策定スケジュールのイメージや前回配布された長期ビジョン、中期プラン、行動計画の関連を表す三角形の図は、とても分かりやすいと思う。

新しい計画の長期ビジョン、中期プラン、行動計画という各計画は、全部関連して成り立っていると思うが、その関連性を明確にし、また、その関連性を広く県民に伝えるために、どのような資料を作り、どのようなメディアで伝えていくのかを、今後この部会で検討していくべきだと思う。

資料に関しては、まずペーパーで見てもらう際には、分かりやすい図表やイラスト、写真というような興味を引きやすい資料、分かりやすい資料というものを発信していくべきだと考える。

現在の計画でも「概要版」を作成し、分厚いものを読む気にならないという人にも分かりやすくしているが、新たな計画でも、自分が関連することに関して「見てみよう」と思うようなもの、きっかけとなるような資料、分かりやすい資料というものを、この部会でアイデアを出し合って検討し、明るい未来のために発信すべきではないかと思う。

(部会長)

こうしたプランを作った時には、私もそうだが、達成目標として数値を欲しがらる。行動計画などは、まさに目の前のことなので、数値で評価しているが、10年後のプランでどのように目標を作っていくかというのはすごく難しい。

例えば環境では、CO2削減などは絶対にやらなければならないことなので、目標を作り、「いつまでに、どのくらい、どうする」といったことを決めていく。しかし、この種の計画でどこまで迫れるのか、数値目標を作るかどうかも含めて、これからの検討課題となるが、方向性として1つのポイントだと思う。

また、私は後半の方がもっと大事だと思うが、今まで長期ビジョンがあって、行動計画があった。ここに10年の中期プランが入るが、県民の皆さんのため、地域の活性化や地域づくりのために、一生懸命エネルギーを使っているのに、皆さんに共通認識を持ってもらうため、いかに分かりやすくするかというのは大事なポイントだと思う。アウトプットということで、中身を理解してもらい、その前に興味を持ってもらうために、ぜひ知恵を絞っていただきたいと思うのでよろしくお願いしたい。次回ぐらいに皆さんと意見交換したいと思う。

(委員)

私からも2点ほど言わせていただく。前回の部会には出席できなかったが、意見としては資料3の「I. にぎわい ③文化」のところで「祭りの継続や復活のための支援が必要」ということを、言わせていただいている。

まず、徳島県が元気になるためには、やはり地方が元気であることが一番であると思う。地域が元気で活発であるということは、そこに住んでいる人が元気でなければならないということで、1つの指標として「祭り」を挙げさせていただいた。

元気な地域を支えるということで、その地域に住んでいる若者たち、青年層が生き生きと活動していることが重要ではないかと考えている。県において、地域で頑張る青年層・若者の位置付け、重要度を改めて見つめ直していただきたいと思う。

地域で頑張る人たち、NPO法人や青年団の方など、そうした活動への支援、バックアップの強化を今後ともお願いしたいという意味も含めての意見である。

2点目は、表現の細かいところだが、「未来創造」のところにある「宝の島とくしま」、「活力と希望にあふれたとくしま」というように、「〇〇の徳島」と聞くと、親しみやすく、自然と入ってきやすいように思う。単語だけを置くよりは、「こういう徳島にする」という意味も含めて、そういったタイトルにすれば良いのではないかなと思う。

また、Ⅵ. 教育のところ、①「自立したたくましいひとづくり」とあり、行動計画の中でも「人づくり」という表現があったと思うが、人というものは「作る」というより「育成」という表現がふさわしいのではないかなと思う。

(委員)

企業などの場合は、まず企業がどういう存在意義、企業理念、会社理念を持ってやっていくかを定義をし、会社をやっていくのは、こういう目標のためということを確認した上で、それを全社員で共有して、同時に長期ビジョン、また、今期の目標や中期の目標といったものを作っていく。

この計画の中に長期ビジョンと今後のアクションプランはあるが、そういう会社理念にあたるようなものは、県の場合、何になるのか。県民憲章みたいな形になるのか。そういうものはないのか。

(事務局)

「オンリーワン徳島行動計画」の12～13ページ辺りを見ていただくと、全体を貫く基本理念というのは、「オンリーワン徳島」ということで、ずっと繋がっている。

13ページに長期ビジョンの「2025年目指すべき将来像」があり、理念というのはこの3本立てになっている。「幸せに年齢を重ねる社会」、「幸せづくりに貢献する社会」、「幸福感が高まる社会」が長期ビジョンの理念となる。

この長期ビジョンを目指していく過程での10年後の中間目標、現実的な目標を中期プランで作っていくこととなる。

そのため、先ほど〇〇委員から意見のあった中期プラン独自のキャッチフレーズを持たせるかどうかについても、検討させていただきたい。

(委員)

先ほどの「2025年の目指すべき将来像」として、3つあったが、これとここにある「地域力」というところを、どう理解したら良いのか、理解の仕方が色々あるので、じっくり考えていきたいと思う。

2点ほど考えていることがある。直接、この目指すべき将来像と中期プランの中身に整合性があるか分からないが、「オンリーワン徳島」は、徳島に今ある特色を活かしていくといったことと同時に徳島の特色を作り出していくということにも繋がっていくと思う。

しかし、「地域力」という場合は、なかなかイメージ的に何かを創造していこうというようなイメージではなく、個人的には今あるこの足元をしっかりと見つめていこうといったような印象を受ける。それより、むしろもう少し夢も持ち、自分たちで徳島の特色を作り出していこうという創造的な言葉の方がじっくりくるのではないかと思う。

先ほど「安心・安全」の社会づくりで、落とした財布が全部返ってくる社会ということを言われていたが、本当にそのとおりで、人が幸せに生きているという大きな生活基盤の確立がなければ、財布は返ってこないと思う。

道徳心だけでは絶対に無理で、生活基盤の確立ができているということが大事になってくると思う。この中にも、Ⅱ. 経済・雇用で、③新産業創出ということも挙げているが、徳島の立地条件を考えた場合、関西圏にも近いし、道路も海路も繋がっている。そうした時に、現在徳島にある会社としては、LEDや大塚があるが、1つの案として、できるだけ環境に配慮した企業の誘致、グリーン・ニューディールのまちづくりが考えられる。例えば「風力発電の部品は、徳島に行けば一級の会社がある」、「太陽光発電の会社が、徳島には日本一の会社がある」など、未来に向けた企業誘致に特化をして進められないかと思う。こうした政策、こうした企業は徳島が一番だと言ってもらえるような、未来に向けた基盤整備、企業誘致などにより、将来に夢が持て、自分たちで頑張れば、夢があって生活ができるという方向性が描けるプランになっていけば良いと思う。

難しいとは思いますが、県民一人ひとりがこのプランを見た時に、「じゃあ自分のスタンスはここでこういうことをやったら良い」という具体的なことが見えてくるようなものになりたいし、「自分とは関係ない話だ」ということにならないようにしたいと思う。

(部会長)

私は計画づくりの仕事をしているが、大事な点だと思う。なぜ計画を作っているかと言えば、やはり県民の皆さんのためであり、根底に「夢のある」というのは、今の時代なかなか難しいが、これを見て全ての県民の皆さんに元気が出るのが大事。「俺だったらここで頑張れる」といったことが、非常に大事だと思う。

〇〇委員には本当に大事なことを言っていただいた。先ほどの表現の問題になるが、徳島県の特徴を活かすということも含めて、また計画づくりの時によろしくお願ひしたい。

次に、先ほどの長期ビジョンの理念だが、その「将来像」と今回の資料の「地域力」の関連性が難しく、こういう社会を実現するためには、「地域力」が必要ということかと思う。「地域の活性化・地域づくり・地域で支える」ということは、まさにこの社会に続く訳だが、この辺りはどうか。

(事務局)

実は長期ビジョンは、「将来像の実現に向けて」という形で、この分厚い資料の方で14ページ以降、19ページまで続いており、さらに20ページから25本ほどのストーリーがある。

このストーリーというのは、例えば日常の生活はこうなっているということで、具体的に3つの社会をイメージした時の場面、場面を切り出している。

この場面、場面というのは、実は色々なものが有機的に絡まっているもので、その施策を整理して、例えば教育の分野や、経済、雇用の分野という風に切っていくと、どうしても多分野にまたがってしまうところがある。

長期ビジョンで、最終的にこういうものを目指したいと示して、それを実現するために43ページから「行動計画」という形で、具体論に記載している。この具体論を積み上げていくと、こういった社会が実現できるであろうというのが、現計画の内容となる。

具体的な取組目標を掲げている4年間の行動計画と、ストーリー性を持った2025年の日常生活のイメージを繋ぐものが、中期プランの役割だと考えている。

また、ここが綺麗に1本でまとまるという訳ではなく、先ほどの話にもあったが、1つのことが多面的な意味を持っており、例えば林業を捉えた場合、それを産業と捉えるか、環境と捉えて森づくりと捉えるかによって、施策が入る場所が変わってくる。

今回示した「地域力」という言葉についても、実は事務局として悩んでいるが、色々な方と話をしている中で、地域を大事にして徳島の強みを伸ばしていく、徳島が少し欠けているものについては、それをどんどん取り込んでいくというのは、やはり地域の取組であろうと考え、1つは全部「地域」という形でまとめた。

ただ、そうすると、どうしても現実的な課題に直面した、どちらかという行動計画に近い部分というのがクローズアップされがちであるが、「地域を活性化する」「地域をつくる」「地域で支える」ということを、それぞれ実行していくと、最後の「未来創造」「夢」のところへ繋がっていく。逆に言うと長期ビジョンで示している一歩高く飛んだところへ繋がっていくと考えている。

全体構成としては、このⅠからⅥまでの柱、それぞれのところで行動計画と繋がる具体的な取組を進めていくと、Ⅶの少し大きく目標を持ったところに繋がる。そのような構成

でどうかというのが、我々事務局の整理した内容である。

したがって、先ほど説明した3つの社会。この社会像と「地域力」が、上から2つずつ順番にリンクしているという訳ではなく、それぞれがクロスで繋がっていると思う。

例えば施策を分けていく時に、この施策がどこに繋がっていくかということを示せば一番良いが、色々なところに関係するということもあり、全部表現するのは難しいと思われる。事務局としても努力するが、今の段階でそこまで明確に言い切れないところがある。

先ほど中期プランのキャッチフレーズが必要ではないかという話があったが、ここの「地域力」という部分は6つの柱を立てた時に、それぞれがどういう意味合いを持っているかということで、それを説明するために記載したものである。

今の長期ビジョンにあるものがベースとなっているので、ここに新たに「地域力」という言葉を打ち立てて、さらに作っていくというのではなく、今の長期ビジョンをベースにして、それを整理する際に、「地域」という言葉で区分をしていると理解いただければと思う。

(部会長)

長期ビジョンと繋がるし、その方が分かりやすいと思う。これは、中期プランで切り取っているが、最終的には、その辺りの関連も書くと、より分かりやすくなると思う。

(委員)

表現のところで、基本戦略「Ⅰ. にぎわい」とあって、次に重点方針①②③④とある。例えば「④スポーツ」だと、何となくイメージが湧くが、「①交流」という風に大きな括りだとイメージが湧かず、分かりにくい。

この「Ⅱ. 経済・雇用」のところも、「⑥次世代林業」という風な重点方針だとイメージが湧きやすいが、「①支援体制」となると、分かりにくい。イメージしやすい方針を立てると、広く県民にも分かりやすいのではないか。

(部会長)

全体的には事務局で一生懸命考えて、網羅的に項目立てはできていると思うが、表現として上手く伝わるかということかと思う。

(委員)

「①交流」に交通と情報が一緒に入っており、「交通の交流」と「情報の交流」が同じ所で良いのかと考えてしまう。意味が広いと考えてしまうため、分かりやすい、イメージしやすいものが良いと思う。

(部会長)

これを言うとややこしくなるが、キーワードで難しいものについては、易しい表現で説明をつけるなど、その辺は人に伝えるテクニックだと思う。

今のところを考えていただいて、次の会議で議論をしなければならない。何か良い案があればまた教えてほしい。

これはまだ次回に続くので、今言っておきたいこと、それから是非にということがあればお願いしたい。

資料3を見ていただくと、基本戦略・基本方針のところで色々意見を頂いたが、真ん中に「未来創造部会委員意見」という欄がある。この欄を見ていくと、意見が入っていない所があり、事務局との事前の打ち合わせで、ここを埋めたいとの話があった。今すぐには難しいと思うが、また気づいたら言ってもらいたい。

今度、素案を作る時は、資料3のような仕分けはなくなるのか。

(事務局)

施策を書くような形になると思う。

(部会長)

分かりました。それでは、それまでに意見があったら、お願いしたい。
時間も残り少なくなってきたので、他に意見があったらお願いしたい。

(委員)

「未来創造」のところは、どちらかということ本当に少しステップアップしているところと捉えているが、「①人権」というのはここに入るものなのか。かといって、どこに入れば良いか考えつかないが、何かしっくりこないという感想を持っている。

もう一つは、「Ⅳ. 教育」のところで、「②特別支援教育の充実」がある。恐らく義務教育の場合を主眼に設けていると思うが、大学生でも皆と一緒にやっての教育が難しいという学生がたまにいる。

そうした学生にも、凄く勉強意欲があり、個別に話をしたり、個別に質問をするときちゃんと返ってくる。しかし、恥ずかしくて皆の前ではできないといったところがあり、大学でも議論しているところである。また何か特筆すべきような意見が大学で得られたら、こちらに持って来ようと思う。

(部会長)

「未来創造」の所は難しい。「夢を乗せよう」というイメージは、私も非常に良いと思っていた。「③活力と希望にあふれた徳島」などは、凄く良いが、その横の「コンパクト化」というのは私の専門分野であり、これはどちらかということ「基盤整備」かなと思って見ていた。

(委員)

「宝の島」をイメージできないように感じるが、これで良いのかと思う。

(部会長)

ここは「未来創造」のところで、カテゴリが1つしかない。しかし、柱立てでいくと7つ目である。これは1つの案なので皆さんから意見をいただきたい。

(委員)

これを見ながら考えたが、新しい計画をできるだけ読んでもらい、分かりやすくするため、4つに分ける括りにしたらどうかと思う。

「地域の活性化」「地域をつくる」「地域で支える」といった3つの括りにして、あと、「未来創造」の所で「宝の島とくしま」という括りにしてはどうか。

今の案では、重点方針が細かくあるので、煩雑になり、読む方も大変ではないかと思う。

(部会長)

サブタイトルで2つずつ括ってあるので、これを1つにするという手も考えられるということか。

(委員)

できるだけシンプルに、例えば「地域の活性化」の中では、この2つ、あるいは3つが重点だと絞り込んでいくのはどうか。やはりこの基本方針というのは全部網羅しないといけないものなのか。

(事務局)

そうした方向も検討するが、行政の計画なので、行政の分野はある程度網羅していかなければならない。あまり重点方針の数を減らすと、先ほど意見があったように、幅が広すぎてイメージができないタイトルとなる懸念もある。いずれにしても、検討させていただく。

(部会長)

大変だと思うが、よろしくお願いします。

(委員)

資料にある重点方針は、これまでいただいた県民の意見から、それに対し、適切な言葉を当てはめて作ったと理解しているが、そういう意味では、「県民からの主な意見」というものをここに表現する必要があるのか、もう一度見直した方が良い気がする。

もう1つ、私の立場から言うと、県都として徳島市の中心市街地の活性化や徳島市からの文化発信などに関し、常日頃から何かやっていきたいと考えているが、例えば、今の私の意見は、項目としてどこに入るようになるのか。県民の意見がないことから、この重点方針に入っていないものがあるように思う。県民からの意見を基本にして、それに対して項目を当てはめ、それが計画のすべてとなるのはどうかと思う。その辺はもう少し議論をした方が良いのではないか。

(事務局)

委員から話があった県民からの意見を幅広く聞くということもあるが、現在の計画の冊子53ページの体系を見ていただくと分かるように、元々、ある程度完成した形で施策を遂行している。

当然、意見を聞く際にも、この冊子を示した上で、意見を伺っており、これを踏まえて「私はこういう分野でこう思う」と発言されている方が大多数だと理解している。

この7つの分野の各項目と今いただいている意見を上手く組み合わせ、長期ビジョンと行動計画を上手く融合させていかなければならない。そうしたことも、今後の作業の中で考えていきたい。

(委員)

分かりました。今回のこの未来創造部会に関しては、今の基本戦略・重点方針という、項目の中において、これが既存の目指していく方向で、それを変えていくという訳ではなく、この項目の中で何ができるかということをも具体的に考えていくという認識で良いということか。今までの皆さんの意見を聞いて、表現などを色々変えていく必要があると考えていたが・・・。

(部会長)

もちろん表現などを含めて検討していただきたいと思う。枠組みも検討していく過程で、徐々に良くしていただき、また我々が議論する機会はあるので、そこでやりたいと思う。

それでは、予定の時刻を過ぎてしまったので、まだ意見があるかと思うが、気づいた点があれば、事務局へお願いしたい。

今日は沢山の意見をいただいた。今後、事務局でプランづくりをしていただくが、大変な宿題となるが、よろしくをお願いしたい。私ももちろん協力するが、必要に応じ各委員のところにも相談に行くので、よろしくをお願いしたい。

4 事務局説明

- ・ 本日の会議録の公表については、部会長と協議の上、公開する。
- ・ 次回の未来創造部会は12月を目途に開催予定。

5 閉会